

日本の教育を揺るがす大問題？

学校の先生働きすぎです。

実はこれは今、日本の教育を揺るがす大問題になっています。

公立学校の先生たちには基本的に残業手当がありません。それでいて仕事は増えるばかり。半数以上の先生が1ヶ月に45時間以上残業。月100時間を超える残業をしている人も。近年では病気で休職する先生の80～100%が精神疾患という現実が青梅にもあります。

忙しすぎる学校現場

「ブラックな職場はいやだ」教職を志す学生が減り続けています。たいへんな危機といえます。「子どもたちのために！と思いき先生たちは無理を重ねてしまうが、それで疲れ果ててしまう現状は子どものためにもならない」と文科省は言っています。

クラブ活動を外部のコーチに任せたりしても、先生たちの忙しさはなかなか改善しません。過労死という悲しくつらい事件もあるそうです。

そんな中、市の教育長は他の教育委員にも相談せず、トップダウンで校外学習の予算を付けてしまいました。担任の先生はこれでまた60時間以上の仕事が増えると学校現場から聞きました。こういう予算の付け方からして大問題!! 分かってないのです。

心の問題を抱えている 児童に専門的な知識 を持つ人を！

つらい子をつらいままにしないで！先生たちはともかく忙しすぎ。行事などに追われ、いじめについての専門的な勉強もなかなかできません。表面的な解決で満足してしまう場合もあるのでは？いじめを受けると深い心の傷を負います。手や足を怪我した場合と同じで、心のお医者さんに診てもらう事が必要な場合も。学校の保険で心の治療もできます。専門的な知識を持つ人の力を借りましょう。子どもの人生に明かりをともし、自分の力で歩きだせるように手助けをしてあげるのはとても大切なことです。



ひだ紀子

青梅市議会議員・議会報告 vol.26

政党に属していません。一人会派です。

コロナの一年

想像したこともないような一年でしたね。いかがお過ごしでしたか？

総合病院にクラスター感染が起こり長期化、救急患者の受け入れも停止した時は深刻でした。アベノマスク、小中の臨時休校、10万円給付など振り返ると様々なことがありましたね。国や東京都からコロナ対策のお金が届き、市でも悩みながら使い道を考えました。

私は生活困難な子育て家庭への支援を真っ先に考えました。非正規で職を失う人への支援も大切だと思います。個人ではなく経済界への支援を最重視する会派もあり、議会内でも優先順位が違う事を痛感しました。

「広報おうめ」届いていますか？

困っている人のため様々な給付金のメニューがあります。またコロナ対策でも大切なお知らせがいろいろあります。それらを市民にお知らせするのが広報おうめですが、青梅市では全戸配布ではありません。市内約6万4000世帯のうち、新聞折り込み等で届いているのは3万5000世帯。なんと2万9000世帯には届いていないのです。市は「市民から申し込みがあれば戸別配布する」「インターネットでもお知らせをしている」

と言いますが、私は全戸配布をするべきだと考えています。三多摩では26市中20市が全戸配布しています。情報が届かないという事は市民の不安も生みます。青梅市で45%のお宅に広報が届いていないというのは大問題だと思います。これから始まるワクチン接種。この特別号を全戸配布することを市に提案しています。



議会内会派名〈みどりのオンブズマン〉ひだ紀子議会報告 vol.26 2021 春

連絡先: 〒198-0171 青梅市二俣尾2-435

tel/fax 050-1332-9289 メールmidorionbu@msn.com

☆詳しい事はひだ紀子facebookをご覧ください



みどりのオンブズマン

ひだ紀子 は こんなふうにチェックした

全国ランキングで14位 青梅市職員の年収

2019年度の地方公務員の給与実態調査(総務省)で、市職員の平均年収は734万円。都道府県も含んだ全国約1800の自治体の中で14位でした!

決して財政が豊かでないのに、なぜ?
「この時は職員数が少なく時間外手当が多かった」「職員の平均年齢が高い」と市は説明しています。なるほど。

○そこで職員平均年齢がほぼ同じの大阪市・渋谷区・京都市・立川市・神奈川県庁と年収の違いを比較してみました。

大阪市 マイナス16万円
渋谷区 マイナス23万円
京都市 マイナス26万円
立川市と神奈川県庁
マイナス40万円

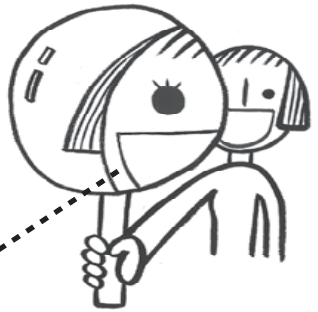
驚きますね。青梅市は非常に高い。

○残業手当が多いのでは? 過去にさかのぼると、この5年間に三回も高ランクに入っています。財政難のため残業を減らす取り組みをした2年間だけは順位が下がっているのですが、また元に戻ってしまったことが分かります。青梅市役所、仕事の進め方に大きな改革が必要です。市はなかなか認めようとしませんが…

全国公務員年収ランキング 青梅市は

年度	全国順位
2015	14位
2016	9位
2017	43位
2018	38位
2019	14位

おかしいことは「おかしい」といえる町に



基幹電算処理
クラウドで大幅に安く!

以前青梅市の基幹電算処理は特命随意契約で年間3億円以上かかっていました。びっくりですね。ひだは何年も提案し続けてオープンシステムに切り替えたとき、そのコストは約半分に下がりました。「さらなるコストダウンを」と次にはクラウド化すべきだと提案してきたところ、来年から市は契約を更新しクラウドに踏み切るとのこと。年間コストは今よりさらに30%下がるそうです。良かった!

熱が出た!!
もしかして、と思ったら...

かかりつけ医がいない方は、青梅休日診療所で診てもらえます。西多摩医師会の協力で休日と夜間、診療しています。医師の診断で必要ならばPCR検査も受けられます。健康センターtel.23-2191にお問い合わせを。今はテントですが、5月には市が建てる休日診療所が完成。一般外来のほか発熱外来そしてPCR検査センター(薬局あり)が設置されます。

詰めの甘い内部調査 談合のゆくえ

約3年前の青梅市公共工事での談合事件は一審無罪、二審有罪で最高裁判所の判断を待っているところだそうです。

当時、別の工事でも市の職員と業者の間になれ合いがあり、受注調整が行われたのではないか、という読売新聞の報道がありました。今年2月、青梅市は市役所職員が行った談合事件にかかわる内部調査の結果を公表しました。表紙の字は限りなく小さく、作成者の氏名すら記されていません。

読んでみたところ二年以上かけた調査なのに、かんじんのところへ調査や考察の手が届いていないので呆れました。市の職員と業者の間には公金を使うのですから厳しく一線が引かれていなければならないのにそこが明らかにされていない。

職員同士による調査は、やはり不十分ですね。

「第三者による調査を」をしなければダメだと私は今でも思っています。

青梅インターチェンジ北側の広大な農地

今井に広がる40ヘクタールを超える農地。都内で最後のまとまった広い農地といえます。ここを物流拠点に開発する手続きを市は進めています。倉庫が立ち並ぶ巨大な物流拠点ができると青梅市の年収が上がるそうです。

「同じ広さの農業振興用地を確保できないなら、開発はだめだ」としてきた東京都が長年の方針をゆるめたのが不思議でなりません。情報公開請求しても黒塗りの文書しか出てきません。私は、未来の青梅市民にとって大切なのは、安全な食べ物を作るための農地だと思っています。

この豊かな農地は、新たな農業者に引き継いで欲しい!

